

はじめに

呉市では、平成28年3月に「呉市教育大綱」を策定し、呉市の教育の目標として「郷土を愛する心豊かでたくましい子どもの育成」を掲げました。時期を同じくして、平成28年4月25日、文化庁から「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」として、呉市が旧軍港3市とともに日本遺産に認定されたことを受け、郷土愛を育むことを目的に、日本遺産を題材とした道徳学習プログラムの作成に取りかかりました。

本プログラムの作成に当たっては、平成29年度「道徳教育改善・充実」総合対策事業（メニュー1）の推進校である宮原中学校及び同中学校区にある宮原小学校、坪内小学校に協力を依頼しました。宮原中学校区には、呉市の日本遺産の20の構成文化財のうち、13の文化財が点在しており、まさに日本遺産の構成文化財に囲まれた環境にあります。そのような環境の中で、オリジナルの道徳教材及び事前と事後の取組を有機的に関連付けた「道徳学習プログラム」を4本開発いたしました。特に、道徳の自作教材については、児童生徒が日本遺産についての興味や関心を高めるとともに、「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえ、「考え、議論する道徳」の授業を行う上でも、たいへん魅力的な教材となっています。

私は、郷土を愛する気持ちを持つことができる人こそ、国際社会で活躍できる「グローバル人材」になることができるのではないかと考えています。例えば、外国人から自分の出身地である呉市について尋ねられた時、呉市のよさや特色について語るができなかったとしたら、真に尊敬される人物になることはできないのではないのでしょうか。郷土に誇りを持って話ができる人材は、相手から人として大切にされ、国際社会でも活躍できる存在になれるはずです。たとえ進学や就職で地元を離れたとしても、郷土に愛着を持ち続けていれば、いずれ呉市に戻って後進の指導に当たるなど、恩返しをしたいという気持ちが芽生えるかもしれません。独自の文化や歴史を刻んできた呉市の学習をきっかけに、郷土に対する理解を深めるとともに郷土愛を高めていきたいと考えています。

さて、平成30年度より、本プログラムを呉市内の全小中学校で実施いたします。それぞれの中学校区において、中学校区や地域の実態を考慮し、カリキュラムマネジメントの視点を取り入れながら、ワクワク感を持って本プログラムを組み立てていただきたいと思います。

終わりにになりましたが、本プログラムの作成に当たり、御尽力いただきました宮原中学校区の先生方、呉市道徳部会の皆様に対し、心から感謝申し上げます。「郷土を愛する心豊かでたくましい呉の子どもの育成」に向けて、本プログラムが効果的に活用されることを期待しています。

平成30年3月30日

呉市教育委員会教育長 中村弘市